町長コラム

町長室からこんにちは No.6

公と私のあわいで

一宮町長
馬淵 昌也

最近、これまで行政機関と連動しながら地域を支えてきた各種社会組織が元気を失ってきているという話をよく伺います。これは、例えば消防団・シルバー人材センターなどのことです。最も大きな要因は、新しい世代の加入が少ないことによるのだそうです。

地域の防火・防災の中核をなす消防団は、一宮の支団には幸いまだ若い皆さんが大勢いらっしゃいますが、長生郡市全体でみると、若い世代の新規加入状況は思わしくなく、今後、女性消防団、シニア消防団などの組織立ち上げも必要になるのではないか、と言われています。シルバー人材センターについては、新たに登録され仕事に従事される方が少なく、平均年齢が上がる一方だということでした。

こうしたお話は、交通安全協会・自衛隊協力会など、本当にあちこちで耳にします。これまで日本の社会を行政とともに形作り、回してきた諸組織が、その機能を低下させ始めているということで、私は大変な事態だととらえています。こうした組織は、行政とも緊密な関係を有し、「公」としての責任を強く自覚して活動を行っています。役場とともに社会の中で「公」として機能している組織が衰退してゆくということは、「公」の機能全体の後退ととらえるべきだと思うのです。

一方、これまでの組織にとらわれずに、気が合う方々が集まって組織するサークル的なグループが多数できつつあります。こうしたグループの方々は、各々の関心の範囲で、積極的に様々な社会的機能を果たしていただいていると思います。しかし、全体としては、気の合う方々が個人的に呼びかけ作り上げた組織ですので、「公」の要素や自覚は、十分とは言えない場合があります。

今後、これまで行政とともに「公」を担ってきた組織の衰弱と、私的な回路に始まる任意の組織の成長という事態に対して、民間ではあっても「公」としての自覚と責任を担ってもらえる組織の再構築が課題となってくると、切実に感じております。